

答辞

本日は、長鶴学長をはじめ諸先生方のご臨席を賜り、皆様からの御懇篤なる励ましのお言葉を頂き、看護学研究科の修了生を代表して、心より深くお礼申し上げます。

私は、若い世代の人々が自身の健康に関心を持ち、健康的な生活を送ることが出来るために必要な支援は何かという問いを持ち、実践力の高い保健師になることを目指して、本学研究科の門戸をたたきました。

実践力の高い保健師になるための学びは、講義、演習、実習と多岐にわたり、特に実習では、市町村、保健所、県内企業において、保健師活動の実際を学ぶことが出来ました。中でも、公衆衛生看護管理実習では、歯科保健の推進を目的として、宮崎県内の行政機関や医療機関、教育機関等に出向き、各関係機関の歯科保健に対する思いを捉えることが出来ました。保健師は、他職種と連携しながら、地域全体で支え合う体制づくりを行うことが重要であることを学ぶことが出来ました。

研究においては、研究ゼミのディスカッションを重ねて、研究計画発表会、倫理審査申請書の提出・承認を経て研究に着手しました。

修士論文作成においては、研究方法における信頼性・妥当性の確保、結果を客観的な視点で捉え、根拠をもってわかりやすく伝えることの大切さを学びました。

研究の途中、分析や考察が進まず、先の見えない不安に押しつぶされそうになりながらも、研究に協力してくださった方々のことをおもい、実践で活用できる研究をまとめることが出来ました。

結びにあたり、実習で私たちを丁寧にご指導くださった保健師の方々、また、どんな時も私たちを信じ、励まし、最後まで温かくご指導くださいました諸先生方、研究へのご理解をいただいた皆様、そして、健康に気遣い応援してくれた家族や友人に心より感謝申し上げます。

本学の益々の発展と、諸先生方のご健康ご活躍、ならびに在校生の皆様の一層のご健勝をお祈りいたしまして答辞とさせていただきます。

令和7年3月17日

看護学研究科修了生代表 太田 涼介